

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学科の名称	専任教員数						非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考	
	常勤教員		基準数		うち理学療法士数					
理学療法学科一部	6	人	6	人	6	人	25	人	18.8	人
計	6	人	6	人	6	人	25	人		

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

新教育課程表 (2024年度より)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	城下 未来	兼任
		カウンセリング論	8	城下 未来	兼任
		日本語表現法	8	古市 寛	兼任
		人間関係論	8	藤内 聖子	兼任
		文化人類学	8	畠山 均	兼任
		生物学	8	久保 惣二郎	兼任
		物理学	8	福田 健一	専任
		統計学	8	中道 隆広	兼任
		保健体育1	8	森 日香里	兼任
		保健体育2	8		
		外国語	8	B. J. Joseph	兼任
		キャリアデザイン	15	西川 眞里 他	兼任

専 門 基 礎 分 野		基礎セミナー	15	福田 健一	専任
		ホスピタリティー論 1	8	田中 美吉子	兼任
		ホスピタリティー論 2	8	田中 美吉子	兼任
		ホスピタリティー論 3	8		
	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖生理学総論	8	中尾 夕子	専任
		解剖生理学 1 (骨・関節靭帯)	15	早井 あかね	専任
		解剖生理学 2 (筋)	23	中尾 夕子	専任
		解剖生理学 3 (神経・感覚器)	23	早井 あかね	専任
		解剖生理学4 (呼吸・循環器)	15	中尾 夕子	専任
		解剖生理学5 (内臓諸器官)	15	橋口 将大	専任
		運動生理学	8	中尾 夕子	専任
		疼痛生理学	8	介田 圭	兼任
		解剖生理学演習	15	吉田 大輔	専任
		解剖学実習	23	小谷 泉	専任
		生理学実習	23	介田 圭	兼任
		人間発達学	8	鳥瀬 義知	兼任
		運動学1	15	福田 健一	専任
		運動学2	15	町田 勝広	専任
		運動学演習	8	福田 健一	専任
		疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	8	松屋 福蔵
	病理学概論		8	熊谷 謙治	兼任
	整形外科学1		15	熊谷 謙治	兼任
	整形外科学2		8	小谷 泉	専任
	神経内科学1		15	河合 正行	兼任
	神経内科学2		8	小谷 泉	専任
	内科学1		15	野中 和樹 他	兼任
	内科学2		8	小谷 泉	専任
	精神医学		15	鎌田 秀一 他	兼任
	臨床心理学		8	城下 未来	兼任
	救急救命医学		8	中道 親昭 他	兼任
	画像診断学 1 (中枢)		8	平尾 真希	兼任
	画像診断学 2 (骨・関節)		8	木村 和也	兼任
	リハビリテーション栄養学		8	吉田 大輔	専任
臨床薬理学	8				
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論 1		15	小谷 泉 他	専任
	リハビリテーション概論 2	8	橋口 将大 他	専任	
	社会福祉概論	8	柏木 伸子	兼任	
	健康増進論	8			
	理学療法研究法	8			
基礎理学療法学	理学療法学概論	8	橋口 将大	専任	
	機能障害科学	8	中尾 夕子	専任	
	臨床運動学	15	町田 勝広	専任	
	病態運動学	15	橋口 将大	専任	
	文献研究	8	吉田 大輔	専任	
	理学療法管理学	理学療法管理学	15		
	理学療法評価学	理学療法評価学 1	8	橋口 将大	専任
		理学療法評価学 2	45	小谷 泉 他	専任
		理学療法評価学 3	15	小谷 泉 他	専任
		理学療法評価学演習	8	橋口 将大 他	専任
		臨床推論演習 1	8	中尾 夕子 他	専任
		臨床推論演習 2	8		
理学療法治療学	運動療法学	23	福田 健一	専任	
	物理療法学	15	橋口 将大	専任	
	日常生活活動学	23	早井 あかね	専任	
	義肢学	15	町田 勝広	専任	
	装具学	15	町田 勝広	専任	
	義肢装具学演習	8	町田 勝広 他	専任	
	運動器疾患理学療法学	30	福田 健一	専任	
	脳血管疾患理学療法学	30	中尾 夕子	専任	
	脊髄神経疾患理学療法学	15	町田 勝広	専任	
	神経・筋疾患理学療法学	15	小谷 泉	専任	
	発達障害系理学療法学	15	町田 勝広	専任	
	内部障害系理学療法学	30	橋口 将大 他	専任	

		スポーツ理学療法学	15	一瀬 浩志	兼任
		理学療法治療学特論	15	下田 真太郎 他	兼任
		疼痛理学療法学	8		
		リスク管理学	8	早井 あかね	専任
		総合セミナー	90		
	地域理学療法学	生活環境学	15	吉田 大輔	専任
		地域理学療法学	8	樋口 健吾	兼任
		パラスポーツ	8	吉田 大輔 他	専任
	臨床実習	臨床実習 1	20	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習 2	120	臨床実習指導者	兼任
		臨床実習 3	340		

旧教育課程表 (2024年度以前)

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎 分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15		
		カウンセリング論	8		
		日本語表現法	8		
		人間関係論	8		
		文化人類学	8		
		社会福祉概論	8		
		生物学	8		
		物理学	8		
		統計学	8		
		保健体育 1	8		
		保健体育 2	8		
		外国語 1	8		
		外国語 2	8		
		キャリア教育学	8		
		ホスピタリティー論 1	8		
		ホスピタリティー論 2	8		
		ホスピタリティー論 3	8	田中 美吉子	兼任
専門 基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖生理学総論	8		
		解剖生理学 1 (運動器系)	53		
		解剖生理学 2 (神経・循環系)	38		
		解剖生理学 3 (内臓諸器官)	30		
		解剖学演習	15		
		生理学演習	15		
		解剖学実習	23		
		運動生理	8		
		疼痛の生理	8		
		生理学実習	23		
		人間発達学	8		
		運動学	15		
		運動学演習	15		
		運動学実習	23		
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	8		
		病理学概論	8		
		整形外科学	15		
		神経内科学	15		
		内科学	15		
		精神医学	15		
		臨床心理学	8		
		救急救命医学	8		
		健康増進論	15		
		画像診断学 1 (中枢)	8		
	画像診断学 2 (骨・関節)	8			
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論 1	15		
		リハビリテーション概論 2	8		
生活環境学		15			
基礎理学療法学		理学療法学概論	8		

専 門 分 野		病態運動学	8			
		理学療法研究法	8	吉田 大輔	専任	
		文献研究	8			
		理学療法セミナー1	30			
		理学療法セミナー2	8			
		理学療法セミナー3	30	中尾 夕子 他	専任	
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	西村 健	兼任	
	理学療法評価学	理学療法評価学1	8			
		理学療法評価学2	15			
		理学療法画像評価学	8			
		理学療法評価学実習2	23			
	理学療法治療学	運動療法学	8			
		運動療法学実習	23			
		物理療法学1	8			
		物理療法学2	8			
		物理療法学実習	23			
		疼痛理学療法学	8	福田 健一	専任	
		日常生活活動学	8			
		日常生活活動学実習	23			
		義肢学	8			
		義肢学演習	15			
		装具学	8			
		装具学演習	15			
		疾患別理学療法学1 (運動器疾患)	8			
		疾患別理学療法学2 (脳血管疾患)	8			
		疾患別理学療法学3 (脊髄神経疾患)	8			
		疾患別理学療法学4 (神経・筋疾患)	8			
		疾患別理学療法学5 (発達障害)	8			
		疾患別理学療法学6 (内部障害)	8			
		疾患別理学療法学1実習	23			
		疾患別理学療法学2実習	23			
		疾患別理学療法学3実習	23			
		疾患別理学療法学4実習	23			
		疾患別理学療法学5実習	23			
		疾患別理学療法学6実習	15			
		地域理学療法学	スポーツ理学療法	8	一瀬 浩志	兼任
			身障スポーツ	8		
	地域リハビリテーション特論		8			
	リスク管理学		8			
	臨床実習	臨床実習1	20			
		臨床実習2	90			
		臨床実習3	320	臨床実習指導者	兼任	

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2

	シラバスが作成されていない。	1
--	----------------	---

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入して下さい。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設その他の見学	1年後期	理学療法学概論	1年前期
理学療法評価の実践	2年後期	理学療法評価学 他	2年前期
通所・訪問リハビリテーションの見学	2年後期	地域リハビリテーション特論	2年前期
理学療法治療技術の実践	3年前期	疾患別理学療法学 他	2年前・後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	学校関係者評価委員
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	・年度目標に対する評価や助言
	・中間評価に対する評価や助言
	・学院の自己評価調査結果及び改善策についての評価
	・次年度の教育活動その他学校運営結果の改善に対する助言
自己点検・評価結果の公表	HPで公開(http://www.koyogakuen.ed.jp/rehabili/)

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部
	委員構成等	部長・副部長・各学科教務部員(PT・OT・ST)
	改善の仕組みの実際	教務部会議において定期的にシラバスに必要な追加項目の検討を実施。シラバスの記載内容の吟味を実施。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学院として中・長期的な事業計画を踏まえ、自己点検・評価及び第三者評価の結果を単年度計画に盛り込み、学院全体で組織的に取り組んでいる。また、運営会議を実施し、目標達成に向けた課題の具体的な取組みを示し、職員会議にて教職員に周知し取り組んでいる。
